

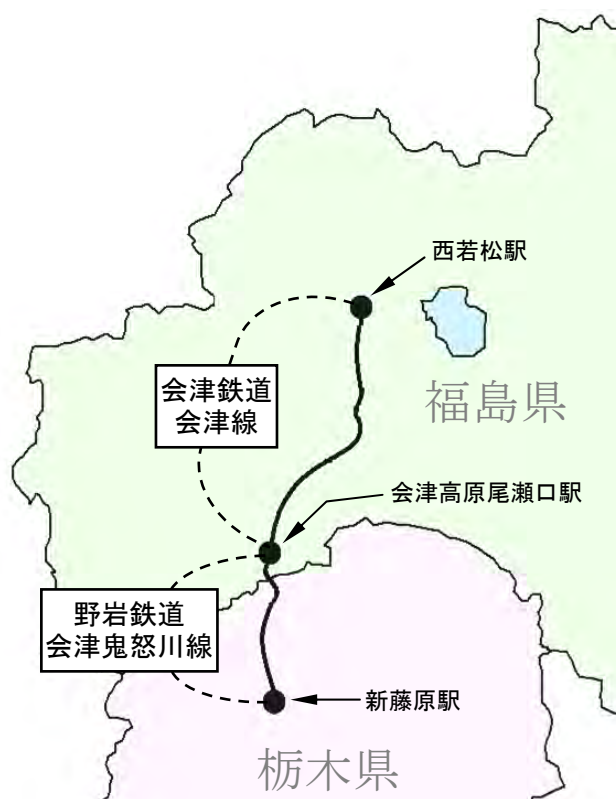
1 分析の目的

会津鉄道会津線（以下「会津線」）と野岩鉄道会津鬼怒川線（以下「会津鬼怒川線」）の両鉄道は、開業以来地域の公共輸送機関として地域社会・地域経済の振興に貢献してきております。

会津線・会津鬼怒川線（以下「両鉄道」）が一体として運行され、会津地域と首都圏が直接結ばれていることは、地域開発、観光客の誘致、地域住民の移動手段の確保など地域経済に対して大きな役割を果たしていると考えられます。しかし、会津地域※と首都圏を結ぶ両鉄道の利用状況、利用者の実態、そしてその経済効果を具体的に分析する試みはこれまで行われませんでした。

両鉄道の開業から20余年が過ぎ、沿線地域の現状をみると地域の経済は長らく停滞し、人口減少と少子高齢化が進んでおります。そのような状況において両鉄道の今後の在り方や一層の利活用を検討する一つの材料として、さらには会津地域をはじめ県内の観光振興を考える際の一つの材料とするべく、会津地域と首都圏との移動に両鉄道を活用している利用者に対する調査を行いました。

この調査結果と両鉄道の業務資料を基にして、会津地域と首都圏間における両鉄道利用者の特長や旅行行動の把握、さらには会津地域と首都圏間の移動手段に両鉄道を利用した県外旅行者による福島県内への経済波及効果の計測を行いました。



※県内を地域分けする場合は通常「県北地域」、「県中地域」、「県南地域」、「会津地域」、「南会津地域」、「相双地域」、「いわき地域」の7つの生活圏に分けられますが、本文中の「**会津地域**」は7生活圏の「会津地域」と「南会津地域」に含まれる地域全体を指しています。